



·····・いやら、しい·····です······」

「エッ

チな女のコだよね」

ん、あ……っ、エッチ、な、 \hat{o} ココお

Ò 声を聞きながら、 腰を前後に振り続ける。

チンポは肉ヒダを掻き分けるように責めていて、 結合部から愛液を滴らせて 17

最初のセックスの としては理解してるつもりだったけど、女のコの身体って本当にこ 時よりずっとグチャ グチャで、 もう溢れ んばかりにって感じだった。 んなに濡れるん

「おっぱいも気持ちいい……ッ!」

手首を回転させるようにして、翔子の お す。

ピンッと勃った乳首を指先で擦りながら、 、お互いの官能を高めっぱいをこねくり回す 7 45 つ

いつ・・・・・あ、 う.....んおぉ :? !?

気持ち良さそうに身をよじる翔子の姿が可愛らし 65

もっともっと感じてほしくて、俺の 責めはさらに激しさを増 して 65 つ

「セッ クスって、気持ちい 13 ね

゙゙゙゙゙ぱ はい……ふ あつ、 き、 気持ち、 65 ッい 'n う ち 65 65

そろそろ……くっ、 イきそう…

官能が ?緩や かに 高 まっ てきて、 俺を射精へと導い てい

下腹部の奥を何かがグルグルと回って、 全身を電気のようなもの つ

Hるっ

のオマンコの中に射精する。

ずぷうううう う。

の中で俺の肉柱が 泌れ、 口 ĸ 口 の精液が膣内に注ぎ込まれていく。

この解放感がたまらな 65 0

ああああああッ!」 まるで空を飛んでいるような浮遊感が広が つ 瞬だけ俺の意識を真っ白

淫らが ゚まし い喘ぎを漏らし、 翔子の身体が ^ベッド の中でビクンビクンとわなな

俺 の中から再び、後から後から精液が迸 n 曲 た。

ずぷ! ずぷ! ずぷうう・・・・・

肉ヒダが絡みついて俺の勃起を揉み しだい てくるようで、 射精 が 全然止 まらな つ

「う、わ つ……マジかよ……ッ!」

俺は思わず声を上 一げた。

まだ射精し のだから。 て間もない つ 7 13 . うの に、 俺は翔子の オマ ン コ 0) 中に一 一度目 0) 精液を放 7

しまった

まさか連続で射精してしまうなんて……。

れだけ翔子の中が気持ち良かっ たってことだけど、 これは自分でもびっくりだった。

「あぁ……最高だ……」

もうその言葉しか出てこない。

気持ち良すぎて他のことが考えられない。

の膣内は俺 0 精液でい 、っぱ 17 に満たされて 13 て、 隙間 か ら垂れてくるさまがすごく

卑猥だった。

「翔子は……まだ、イってないよね?」

「はっ……はっ……はっ……は、い………」

身体をわななかせながら、翔子が微かに頷く。

「このくらいじゃイけないのか」

すごく気持ち良か ったけど、 俺だけ が満足するの は ち ょ つ と残念だな。

できれば翔子にも気持ち良くなってほしい。

気持ち良くイって満足してほしい。

たとえ催眠術にか か っ た状態であっ ても、 $\tilde{\sigma}$ 点 つ 13 7 は 変わらなか った。

「翔子、オマンコをもっと気持ち良くしてみようか」

はい

いつもの翔子の、従順な返事。

゙チンポでオマ シコ の中を擦られるたびに、 気持ち良くなるんだ」

「はい」

「イきたくなったら我慢せずにイクこと」

「はい」

「それじ 次に俺がチンポを動かしたら、 翔子の身体はそうい うふうになるんだ

「はい」

いくよ」

そう言ってオ マ コ \mathcal{O} 中 -に突っ 込んで 13 、るチ ンポを動 か

刹那——。

ひああぁっ!!?」

翔子が口から裏返った悲鳴を吐き、 そ してその 背中を大きく 仰け反らせた。

快楽が倍になった効果が早速出たようだ。

「くう オマ つ ンコの締まりもずっと良くなって、 ……これは、すごい……」 が痛い 13

翔子も絶え間なく、悩ましい声を上げ続ける。「あ、ひっ?! あ、あっ、おぉぉっ?!」

73

74

翔子、どうだ? い、ですっ、 新し う、んああぁ 感覚の、身体は……」 ِي !?

肌は全体的に朱色に染まって、さっきまでとは比べ物にならない 快感が強すぎるのか、翔子が激しく髪を振り乱す。

くらい

だった。

はあっ、 柔らかい感触がいっそう強く感じられて、またチンポが硬くなってしまった。上半身も左右に振るようにして、俺の手のひらにおっぱいを押しつけてくる。 おまん、こ、 の中、 ぁ……か、掻き回されて……ああっ、 ひあぁ

翔子の中、グネグネしてる」

あ っ、おちん、ちん、んんっ、奥まで…… は、あ つ、 グ リグリって、

の中から、いやらしい汁が、溢れてきてるよ」 翔子の身体がビクンッ と震えた。

催眠 **羞恥心を煽るような言葉をかけると、** 態になっていても恥ずかしがってくれるから、反応が楽しくてたまらな

オマ ンコがきゅって締まるのも恥ずかしさを表してるみたいで、 それを感じると妙に嬉

っ てしまった。

もっとこっちに来て」

い……んひぁっ、 あ、 つ

ついたほうがもっ と気持ち良くなるよ」

「も、もっと、 お、 き、 気持ち、 ţ ううつつ、 なる、 う、 んうぅうううう

ううつ

低く呻くような声を漏らす翔子。

決して可愛らしい声ではないけど、 こうい う反応も悪くない

むしろ、 俺の身体 は しっ かりと興奮し してしま っ 7 いて、 チンポを硬くしてるひとつの

因となっていた。

「オマンコの中、メ チ t クチ ヤ 震えてる

俺がそんなことを言っ た瞬間

「んあぁッッ!!?」

翔子が身体をビクビクと痙攣させ て、股間か ら透明な体液を噴き出

ぷしゃああああああああああ ああ**....**。

ゆる潮吹きというやつで、教室の床がび っ し ょ り と濡 n てい つ

・っぱ 出たね」

は、

イったからとい って、それで終わりになるわけじゃな 65

俺 チ ンポもまだ元気は残ってて、 ここで腰の動きを止めることはできなか

オマンコの中って本当に気持ちいい。

愛液で濡れてるとさらに滑りが良くなるから、腰が抜けるほどピストンが速くなる。

「あ、あ、あああっ、く、くるぅっ!!」

俺の運動に大きく身体を揺らしながら、翔子が絶頂の予感を告げる。

「イ、イク……く、あっ……出る……ッ!」

俺もまた、自分の限界を悟り、それを告げた。

----その、次の瞬間。

あああああああああああー

翔子の喉元から、今までにないほどの大きな声が溢れた。

そしてそれと同時に。

奄)力己は、羽子)−−−どぷぅぅ……っ。

俺の勃起は、翔子の中でまた射精した。

チンポからドバドバと吐き出される精液は、翔子の中から溢れ、 机からも溢れ出し、

室の床まで滴っていった。

ああ、催眠術って本当にすごい。

今まで変えられなかった幼馴染って関係を、こんなにも激変させてしまうんだから。

まるで夢を見てるみたいで、 少し怖いくらいだった。



――しばし、絶頂の余韻に浸っていた俺だったが

気に戻ると、 チンポがベトベトで気持ち悪くなってしまっ ていたことに気がついた。

そうだ。 翔子の口で俺のチンポを舐めて綺麗にしてくれよ」

はい

翔子がすぐに身体を起こして、 オマ ンコから抜い たばかり Ó 俺 \bar{o} チンポ に 0

「はむ、んっ……」

チンポはいきなり根元まで呑み込まれていて、 生温かい舌が竿に絡みつ 13 てきて、 それ だけで 丁寧に精液を舐め取られてい腰の後ろがゾクゾクした。 の後ろが ゾ クグ

――んぢゅっ、ずぷ……っ、ん、ぐ……っ!

「くふ……っ」

たまらず、俺もつい間抜けな声を上げてしまった。

「ん、んふっ、ん、ぷぁ……はぁ、ん……」

精液を一滴も残さな 翔子の柔らかい舌が ように、 チンポの皮の内側まで潜り込んでくる。 まるで肉奴隷 のように奉仕を続けてくれた。

とは言え、 こんなふうにされていると、 俺のためにここまでしてくれてるって感じがしてものすごく嬉しかった。 ますます翔子のことが好きになってしまう。催眠術の

――……ず、ちゅっ、ずちゅちゅっ!「翔子、尿道の中まで吸い取って」

なんだか慣れた動きなのは、やっぱり催眠術口を窄めて尿道の中の精液を吸い出す翔子。

俺は腰を動かす必要もなくて、ただじっと翔の影響下にあるからだろうか。

子を見下ろすばかりだった。俺は腰を動かす必要もなくて、

いいよ……その、

調子……」

れろっ、

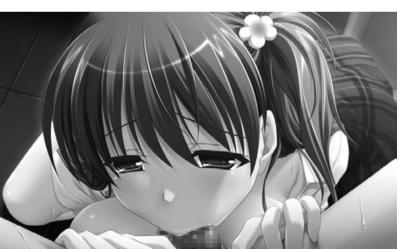
れろれろ……っ。

はる。 翔子がチンポを口から出して、竿に舌を這わ

このアングル、メチャクチャエロい。いって、尿道口から精液が染み出した。べったりとした感触が下半身全体に広がって

ポをバキバキに硬くしていった。 翔子の舌がぬるぬると這いずって、俺のチン

「ん……んふ……っ」



ぷちぱら文庫

和姦催眠

2012年 2月17日 初版第 1 刷 発行

■著 者 北原みのる

■イラスト Po*

■原 作 ディーゼルマイン

発行人: 久保田裕

発行元:株式会社パラダイム

₹166-0011

東京都杉並区梅里2-40-19

ワールドビル202 TEL 03-5306-6921

印 刷 所:中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをすることは、 かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©MINORU KITAHARA ©2009 Dieselmine

Printed in Japan 2012

PP043



ぷちぱら文庫29 田中珠 著 よろづ 画 ディーゼルマイン 原作 定価 670円(税込)

好評発売中

手にした力で欲望が加速する…!!

純人はある日、見覚えのないDV Dを見つける。その中身は、ミスターzowと名乗る男による催眠術講座だった。半信半疑ながらも初級編の『誘導』を覚えてクラスメイトを相手に実践してみると、見事催眠にかかり自ら服を脱ぎだして!?



